

森を比べる 4年

6月19日(月)



これまで、株式会社百森の永美暢久さんを講師に森の「良いところ」「悪いところ」について様々な視点で教えていただきました。

この視点を体感しに、森へ出かけました。広葉樹林、樹木の密集具合を考慮しながら木々を間引く「間伐」をされたばかりの人工林、森林の一区画の木々をすべて伐採する「皆伐」された新しい山、立派な木が育っている人工林へ。

広葉樹林は、人工林と違い、枝分かれして曲がる木、実をつける木と様々。「これなに？」と興味津々です。「実から種ができ、新しい木が育つんだよ」と聞いて、「じゃあ取らないほうがいいね」と返していました。作業道をつくり、人が入ることによって山が荒れないようにできる。山が荒れると動物や、人間にとってどうなるのか？想像力を働かせます。どんな木があるか、どんな生き



物があるか、どのように人が関わってきたか・・・様々な要素が重なってそれぞれの森林が今あります。

森林は「家具になる」「建物になる」というところからどんどん複雑に、大きく世界が広がっていきます。続いていく学習が楽しみです。

森林は「家具になる」「建物になる」というところからどんどん複雑に、大きく世界が広がっていきます。続いていく学習が楽しみです。



小4
森を比べてみよう